



のんが案内する「第2のふるさと久慈」

くじのん

#久慈のんびり旅



Vol. 01

TAKE FREE



特集

のんと行く！ 久慈のんびり旅

- 日本一の白樺美林
- 琥珀と恐竜のまちづくり
- 「もぐらんぴあ」に行こう

NEW
スポット 「新山根温泉べっぴんの湯」

Information

くじのんグルメ紀行「まめぶ」



のんで行く! 久慈のんびり旅

「くじのんびり旅」は、地元の人と交流したり、心安らぐ景色を眺めたりすることで、時間を忘れてのんびりできる旅。居心地のよい旅を通して、くじを第2のふるさとにしませんか？

のん プロフィール
女優、創作あーちすと。映画出演や音楽活動のほか「SDGs PEOPLE 第1号」に選出されるなど幅広く活躍中。久慈市へはドラマ「あまちゃん」のロケで訪れて以降、久慈秋まつりへの参加、台風被害慰問など何度も足を運んでいる。2022年より「久慈市第2のふるさとプロジェクト」応援マネージャー就任。



平庭高原の白樺美林

日本一の白樺美林 地域で取り組む保全活動

白樺ってどんな樹？

久慈市の西側に位置する「平庭高原」には、群生する白樺林の面積や本数などの調査により「日本一の白樺美林」と宣言する白樺の美しいポイントがあります。白樺の樹木から放出される「フィトンチッド」という香気成分は、癒しや安らぎを与えるとされていて、白樺美林の森林浴は、のんびり旅にぴったりです。

白樺の樹液は、残雪が残る3〜4月の数週間だけ採集できる貴重な樹液で、人口甘味料キシリトールの原料や保湿力の高い化粧品に使用されています。またミネラル類が豊富に含まれていて、樹液ドリンクやオールインワンジェルなどの商品が開発されています。

白樺美林の保全活動

平庭高原の白樺は、寿命(約80年)を迎えていることから、美しい風景を次世代に残していくため、苗木の植樹や下草刈りなどの森林環境整備が必要になっています。

白樺は「バイオニアツリー」と呼ばれ、山火事などの後に最初に生える先駆樹種のため、成長を促すためには、一定面積の伐採などで裸地を作り出すような整備が不可欠といわれていますが、広大な面積を有する場所での再生の取り組みは全国的にも前例がないた



地元中学生による植樹活動

め、国や県、大学等と連携して、長期的な視点で取り組んでいます。保全活動の一環として、2014年に環境意識や郷土愛を高めるための活動「くじ☆ラボ」を立ち上げて、地域住民を中心に年3回ほど活動を行っているほか、古くから「豊かな森林は豊かな海を育む」と言われるように、森林の保全の活動が海の環境保全にもつな

のんびり旅が楽しめる 久慈市ってどんな場所？

岩手県の北部に位置する久慈市は、東側に太平洋と三陸復興国立公園があり、西側には、標高1000メートル以上の山脈と県立自然公園が広がる、人口3万3千人ほどの街です。内陸部に広がる平庭高原の「日本一の白樺美林」や、国内最大級の琥珀産地として知られ、ドラマ「あまちゃん」で一躍全国区になった「北限の海女」などが有名です。

のんさんは、ドラマをきっかけに、久慈市を「第2のふるさと」と呼ぶほど何度も訪れ交流を深めてきました。

本誌では、「第2のふるさとプロジェクト」応援マネージャーののんさんと一緒に、のんびりできる魅力的なスポットや取り組みを紹介していきます。

がることから、海側に住む子どもたちを招いて植樹活動も行うなど、海と山に囲まれた久慈市ならではの取り組みも行っています。2021年からは「くじ☆ラボ」の活動理念に賛同を寄せる民間企業も参加していて、この取り組みから着想を得た「白樺」をモチーフにした商品販売するなど、保全活動が新たな魅力の発信にもつながっています。

くじのんポイント

平庭高原は、スキー場やパークゴルフ場が整備されているほかに、トレッキングやヘルスツーリズムなどが楽しめる自然体験が充実！年に4回開催する「平庭闘牛大会」は1トンを超える牛同士の取組が大迫力なんです。近くには、大浴場完備の宿泊施設やコテージもあるからのんびり滞在できるね。



太古のロマンにふれる 琥珀と恐竜のまちづくり



「琥珀」ってどんな宝石？

「琥珀」は、太古の樹木から分泌された樹脂が、樹木ごと大雨などで湖沼や海底に押し流され、地中深くに埋もれてきた「樹脂の化石」のことで、非常に珍しい植物性の宝石です。国内最大級の琥珀産地の久慈市では、日本唯一の専門博物館「久慈琥珀博物館」があり、琥珀の成り立ちや世界中の琥珀を展示しているほか、宝石の中で最も軽い特徴を持つ琥珀を、アクセサリ等に加工して販売しています。

世界的な琥珀の産地であるバルト海沿岸地方のものは、約4000万～5000万年前のものが多く、と言われてはいますが、久慈で採掘される琥珀は、約8500～9000万年前の白亜紀後期のものです。世界的にも最古級といわれています。琥珀の色彩は約250色もあり、ナチュラルで暖かい感触や軽やかさが特徴で、久慈産の琥珀は、淡い黄色からウイスキー色まで多彩な琥珀が産出されています。

じえじえじえな発見、 恐竜の化石

博物館に隣接する琥珀採掘体験場では、2019年に採掘体験に訪れていた高校生によってティラノサウルス類の恐竜の化石が発見され話題になりました。その後も

くじのんポイント

ヨーロッパで琥珀を贈ることは、「幸せを贈る」という意味を持っていて、結婚10年目の「琥珀婚」では夫から妻へ琥珀を贈る習慣があるそう！夫婦やカップルで、原石から磨いたアクセサリを贈りあうのも素敵ですね。



久慈市で採掘された虫入り琥珀

琥珀の採掘体験



琥珀アクセサリづくりを体験できる



大学の研究者等による発掘調査が進められ、世界的にも貴重な化石の発見が相次いでいます。この採掘場は、琥珀が豊富に埋蔵されている「久慈層群」と呼ばれる地層上にあつて、手でも崩れるほど柔らかい地層であること、地殻変動の影響を免れてきたことなどにより、保存状態の良い化石が残されていると考えられています。

久慈市では、「琥珀と恐竜」をまちづくりのシンボルにした新たな取り組みを始めています。

新技術で資源の有効活用

近年、久慈琥珀博物館では、これまで活用していなかった小さな琥珀のかけらを製錬し、粉状にしたものを成型する新たな技術「リファインドアンバー」により、商品の開発が進んでいます。また、琥珀と同じ場所で採掘される樹木の化石は、これまで廃棄していましたが、「ジェット」という宝石であることが判明し、琥珀の加工で培った独自の技術を応用した商品開発も行っています。



かめ吉が泳ぐ
トンネル水槽

海洋環境や震災を学ぶ 「もぐらんぴあ」に行こう

日本初の地下水族館の誕生

久慈地下水族科学館「もぐらんぴあ」は、1994年に岩手県で初の本格的な水族館としてオープンしました。地下の水族館は、当時建設中の「国家石油備蓄基地」の作業用トンネルを活用すること

を国に提案し、了承を得られたことから造られたものです。

東日本大震災で全壊を 乗り越え復活

2011年に発生した東日本大震災の津波によって、施設は壊滅的被害を受けました。大量のヘドロによる有害ガス発生危険があったことから、すぐに館内に入ることはできず、1週間後にはようやく立ち入ることが許された時は、水槽や機器は壊れ、飼育されていた240種3000匹の生物のうち、生き残ったのは8種21匹でした。

スタッフが白く濁ったトンネル水槽に懐中電灯を当てると、奇跡的に生き残っていたアオウミガメの「かめ吉」がひよっこり顔を出したそうです。「かめ吉」はその後救出され、八戸市水産科学館マリエントで避難生活を送り、復興のシンボルとしてもぐらんぴあに戻っています。

もぐらんぴあの復活と、さかなクンとの歩み

もぐらんぴあの再建には、国の復興予算のほか、クラウドファンディングで、全国の多くの人からの支援を受け、震災から5年後の2016年4月に再オープンしました。

2005年からもぐらんぴあと交流のあった「さかなクン」は、震災直後から支援を続けてくれていて、震災後に仮店舗として営業していた、「もぐらんぴあまちなか水族館」で応援団長に就任。再オープンしてからも、数えきれな

いほど久慈市に足を運び、かわいいお魚を提供してくれています。

さかなクンは、施設を訪れる度に、ヒレを重ねた魚のイラストを描きます。ヒレが重なっているのは、「人が力を合わせようとするとき手をつなぐ。だから、もぐらんぴあの魚が笑顔でヒレを繋いでいる様子を描いた」と後にお話されています。施設の「さかなクン」コーナーに10匹以上の魚が仲良く手を繋いでいます。

震災から10年が経過した今でも、さかなクンは、もぐらんぴあを応援してくれる心強い応援団長です。



イルミネーションがステキなクラゲ水槽

くじのんポイント

リニューアル後から力を入れているのが「クラゲ」で、スタッフが久慈湾から採取したり、館内で育成したクラゲを常時10種類以上展示しています。地下空間でのんびりとクラゲと過ごすのはいかが？

日帰り入浴ができる大浴場



山あいの小さな温泉施設



産直コーナーにはお土産も充実

NEW スポット

べっぴんの郷・山根町で温泉のんびり旅

「新山根温泉べっぴんの湯」は、のんびりとした時間の流れる山根町にあります。「べっぴん」の言葉の名づけ親は、故・森繁久彌さんで、1991年にヨットで日本一周の旅の途中、台風の直撃を避けるために久慈市に立ち寄り、急な依頼にも関わらず、夜を徹して準備した山根町の婦人方のふるさとの料理にいたく感激され「ゆえに別嬪村なり」と発したことから名付けられました。

「べっぴんの湯」は1995年に開業し、Ph10・7の強アルカリ性の泉質は肌がつるつるすべすべになると評判の湯です。現在大規模改修中で、大浴場と食堂のみ使用が可能です。令和5年春には宿泊棟を含めた全館リニューアルオープンを予定しています。

北三陸の魅力が満載！道の駅いわて北三陸



道の駅いわて北三陸

三陸沿岸道路の久慈北インターを降りてすぐに建設されている「道の駅いわて北三陸」は、令和5年春に開業する新しい観光拠点。久慈市、洋野町、野田村、普代村の特産品や美味しいものを展示・販売するほか、子どもが遊べる屋内大型遊具やフードコーナー、産直施設、周辺の観光情報が集まる展示スペースが設置される予定です。敷地内には、ガソリンスタンドが併設されることから、ドライブの寄り道にピッタリです。

東京で久慈に会える！おかえり館に行こう！

東京都有楽町の東京交通会館地下1階にある「気仙沼・久慈・福島情報ステーションおかえり館」は、NHK連続テレビ小説舞台地となっ

た東北の自治体が連携して設置したアンテナショップです。3市に関する観光情報や特産品の販売をメインに、各市への移住を希望する方の相談窓口にもなっています。

令和6年3月までの限定店舗なので、久慈の美味しいものを探しに一度足を運んでみて♪



久慈市の特産品がたくさん！

「ふるさと納税払いチョイスPay」の導入開始

久慈市ふるさと納税の返礼品で「ポイント」を「ふるさと納税払いチョイスPay」の電子ポイントが利用可能です。

市内を中心とした加盟店での食事や買い物、宿泊などがポイントの対象になり、これまで以上に、久慈市を楽しむことができます。寄付すると、その場でポイントがチャージされるので、チョイスPay加盟店ですぐに利用可能です。

※ご利用には、ふるさとチョイスへの会員登録（無料）とふるさと納税払いチョイスPayのアプリダウンロードが必要となります。



岩手県久慈市



久慈市公式ホームページ
ふるさと納税のご紹介

久慈市チョイスPay紹介ページ
QRコードは、株式会社デンソーウェーブの登録商標です

地域おこし協力隊募集中！

久慈市の地域課題を少しでも好転させるため「いつまでも住み続けたいと思いうまちづくり」プロジェクトを、一緒に取り組んでくれる

地域おこし協力隊を募集しています。久慈市の地域資源の活用や課題と感ずる分野を、地域おこし協力隊として活動を希望する方の得意分野やスキルを活かして、主体的に取り組んでいただきます。

活動分野は「農林水産業」「観光」「芸術・文化」「教育」「福祉」「市街地活性化」など。詳しい情報は公式ホームページをクリック！



久慈市公式ホームページ「地域おこし協力隊を募集します」



名人になろう！まめぶの作り方

【主な材料】

- ・ 団子：小麦粉、塩、くるみ、黒砂糖
- ・ 汁の具：ごぼう、にんじん、焼き豆腐、かんぴょう、しめじ、油揚げ
- ・ 味付け：醤油、昆布、煮干し、(片栗粉)

【作り方】

1. 昆布・煮干しで出汁をとる。
2. 汁に入れる具材を切る(にんじん・ごぼうはいちょう切り、油あげは千切り、焼き豆腐は拍子木切り、かんぴょうは1.5cmほどに切り、しめじは小分けにする。)
3. まめぶの団子を作る(小麦粉はお湯でこね、親指大に分ける。少しくぼみを作りクルミと黒砂糖を入れて、中身がでないように丸くする。)
4. 鍋に1の出汁を入れ、具材を入れ、煮えてきたらまめぶを入れ、醤油で味をつける。
(適量の水溶き片栗粉でとろみをつける地域もある)

「のんやろが！ちゃんねる」をチェック



のんさんの公式
 YouTubeチャンネルでは、久慈市の情報も発信中！

くじのんグルメ紀行

まめぶ

甘くてしょっぱい伝統食
 地域の味を文化財に



「まめぶ」って何？

久慈市山形町に伝わる郷土食「まめぶ」の誕生は、江戸時代までさかのぼると考えられていて、「ぜいたく禁止令」が発せられ、「百姓は麺類やソバ切りを食べてはいけない」というご法度が出されたことから、ご法度を破らずに粉ものを食すため、小麦を団子状にして食べたのがはじまりと伝わっています。

まめぶ作りは、家族が手分けをし、力を合わせて作るもので、「まめぶ」の語源の一つにある「忠実

忠実(まめまめしく)しく、健康で達者に暮らせるように」との願いが込められ、特に年末、新年を迎える準備をしたあとに食べられています。地域によって形や具材に変化があり、伝統的な家庭料理として愛されています。

まめぶを全国区に！ 地域の活動

2010年に「まめぶ」で地域活性化を目指すまちおこし団体「久慈まめぶ部屋」が結成され、2013年にはNHK連続テレビ

小説「あまちゃん」に登場し、全国的に有名になったことをきっかけに、伝承活動が活発的に展開されるようになりました。2022年「山形町郷土食保存継承の会」が発足し、将来的な無形民俗文化財への登録も目指し、子どもたちを対象にした「まめぶ未来継承講座」や「まめぶづくり体験」、まめぶの魅力を広く知ってもらうための「まめぶ展」、「まめぶ食フェスタ」などのPR活動を積極的にを行っています。